

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	02	184040	生活道路維持事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	生活道路の維持管理					
対象	道路利用者					
意図	安全で快適な通行を確保する。					
事業概要	市道維持管理（舗装修繕、除雪等）					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	当該年度の舗装修繕件数	路線	計画	17.00	17.00	
			実績	40.00	20.00	
2	当該年度の補修件数	件	計画	250.00	250.00	
			実績	308.00	291.00	
3	当該年度の除雪回数	回	計画	10.00	10.00	
			実績	3.00	3.00	
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	当該年度の舗装修繕延長	m	目標	7,000.00	7,000.00	
			実績	7,134.00	8,176.00	
2	市の瑕疵による事故件数	件	目標	0.00	0.00	
			実績	3.00	3.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い			

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
舗装修繕について目標は達成したが、市の瑕疵による事故を減少させるためパトロールをより強化する。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市道の管理は道路管理者である市が行うものであり、道路の維持補修を実施するのはこの事業だけである。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	舗装など道路の破損箇所については、道路パトロールや補修要望により毎日のように発見されているものの全てに対応出来ない状況であることから、道路パトロール、現地確認、補修対応と早期発見、早期補修につとめることで成果向上につながる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	道路施設の劣化や破損は今後も進むことから、補修箇所が減少する可能性は少なく、安全確保に必要な維持補修事業費の削減余地はない。維持補修箇所への早期対応が必要不可欠であり、パトロールや現地調査、苦情処理等、迅速で確実な対応を効率的に行うための直営人員体制強化が望ましく人件費の削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市が管理し、不特定多数が利用する市道の修繕・補修を行う事業であり、受益者は公平・公正になっている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	計画的に舗装修繕を行うため、早期発注を実施したことにより目標延長を達成することができた。
	次年度に向けて	良好な道路の維持管理を継続していくためには、道路パトロールや現場確認、補修対応、苦情処理等への迅速で確実な体制を確保していく必要がある。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	03	184070	生活道路整備事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	安全で快適に通行できる道路網を構築するため、各コミュニティ地区の土木施設整備要望に沿って、市道の道路改良、現道舗装、側溝整備、雪寒対策を行う。					
対象	整備が必要な市道、市道利用者（車両、歩行者、沿線住民）					
意図	安全で快適な通行が可能になる。					
事業概要	<p>生活道路整備 測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託、道路改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事、事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償</p> <p>【30年度】 道路改良（41路線）、現道舗装（3路線）、側溝整備（16路線）、防雪柵整備（2路線）</p> <p>【31年度】 道路改良（41路線）、現道舗装（2路線）、側溝整備（15路線）、防雪柵整備（2路線）</p>					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	道路改良事業実施路線	路線	計画	41.00	41.00	
			実績	40.00	38.00	
2	現道舗装事業実施路線	路線	計画	3.00	2.00	
			実績	3.00	2.00	
3	側溝整備事業実施路線	路線	計画	16.00	15.00	
			実績	15.00	14.00	
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	道路改良整備(完成)延長	km	目標	1.40	1.80	
			実績	2.30	1.70	
2	現道舗装整備(完成)延長	km	目標	0.50	0.30	
			実績	0.50	0.30	
3	側溝整備(完成)延長	km	目標	1.30	1.40	
			実績	1.50	1.50	
成果指標の達成度		目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と完成延長を決定しているため。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市管理道路の整備のため、妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	本事業は、市道の新設改良、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望や道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	計画的に事業実施したことにより、目標の整備延長を概ね達成することができた。
	次年度に向けて	道路整備に対する要望が多数寄せられている状況から、今後も継続的な整備が必要である。

平成 31 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	08	02	03	188590	生活道路整備事業(繰越)	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-2	生活基盤の充実			
	施策	1	道路環境の充実			
目的	地区要望を踏まえた道路整備					
対象	整備が必要な市道、市道利用者(車両、歩行者、沿線住民)					
意図	安全で快適な通行が可能になる。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○生活道路整備 測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 道路改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償						
【30年度】 道路改良(41路線)、現道舗装(3路線)、側溝整備(16路線)、防雪柵整備(2路線)						
【31年度】 道路改良(41路線)、現道舗装(2路線)、側溝整備(15路線)、防雪柵整備(2路線)						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
				事業協力・協定委託		
活動指標(上記「事業概要」に対応)		単位	区分	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度
①	道路改修事業実施路線	路線	計画	41	41	38
			実績	40	41	
②	現道舗装事業実施路線	路線	計画	3	2	4
			実績	3	2	
③	側溝整備事業実施路線	路線	計画	16	15	12
			実績	15	15	
成果指標(上記「意図」に対応)		単位	区分	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度
①	道路改良整備(完成)延長	km	目標	2.4	1.8	2.9
			実績	2.3	1.7	
②	現道舗装整備(完成)延長	km	目標	0.5	0.3	0.5
			実績	0.5	0.3	
③	側溝整備(完成)延長	km	目標	2.1	1.4	1.2
			実績	1.5	1.5	
成果指標の達成度	目標値より高い		<input type="radio"/>	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と完成延長を決定している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市管理道路の整備のため、妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	本事業は、市道の 신설改良、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望や道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
	<input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・道路整備に対する要望が多数寄せられている状況から、今後も継続的な整備が必要である。		

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	03	184090	花巻スマートインターチェンジ整備事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	高速道路の利便性を向上し、産業振興等の発展を図るため、東北縦貫自動車道花巻パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備する。					
対象	高速道路利用者					
意図	花巻パーキングエリアにスマートインターチェンジを整備する					
事業概要	地区協議会の開催、実施計画書の作成、提出					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	地区協議会	回	計画		1.00	
			実績		1.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
平成30年度までは検討会、準備会としてきたものを構成メンバーを拡大し地区協議会とした。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	道路利用者の利便性、道路環境の向上、地域振興の観点で公共が関与することは妥当と認められる。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	スマートインターチェンジの整備にはある程度の地域醸成も必要である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最低限の経費で整備を目指している。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	道路は公共財であるため公正性は確保されている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	スマートインターチェンジの整備については、供用後の利用促進も見据えて、地域で作り上げる施設であることの動機付けを高める必要がある。
	次年度に向けて	引き続き地域醸成の向上を図っていく。

平成31年度

事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	08	02	04	184100	橋梁維持事業費		
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実		
	施策	01	道路環境の充実				
目的	交通の安全を確保するとともに橋梁の長寿命化を図るため、花巻市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期に対策すべき橋梁を優先して修繕する。						
対象	道路利用者、市民、修繕が必要な橋梁						
意図	橋梁修繕により、市内を安全で快適に移動できる。						
事業概要	<p>橋梁維持事業：橋梁点検、橋梁予備設計、橋梁補修設計、橋梁補修工事</p> <p>【平成30年度】</p> <p>橋梁定期点検 149橋(L 15m:144橋+JR橋5橋)</p> <p>橋梁補修設計 12橋(花川橋, 絹川大橋, 高瀬橋, 熊堂橋, 新大曲橋, 松雲台橋, 新川2号橋, 安野川3号橋, 八合田橋, 浮田橋, 猫塚橋, 林崎橋)</p> <p>橋梁補修工事 3橋(野田橋, 松園橋, 天下田橋)</p> <p>【令和元年度】</p> <p>橋梁定期点検 247橋(L<15m:244橋, L 15m:1橋+NEXCO橋2橋)</p> <p>橋梁補修設計 14橋(留ヶ森三の橋, 合沢一号橋, 迫橋, 野金山橋, 立沢橋, 下西沢橋, 猪鼻4号橋, 山屋4号橋, 白金沢橋, 朴ノ木沢2号橋, 母衣輪1号橋, 母衣輪3号橋, 平良木2号橋, 平良木3号橋)</p> <p>橋梁補修工事 6橋(留ヶ森三の橋, 合沢一号橋, 迫橋, 熊堂橋, 新川2号橋, 八合田橋)</p>						
市民参加の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	修繕橋梁数	橋	計画		3.00	4.00	
			実績		3.00	3.00	
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	修繕対象橋梁修繕率 (H21～H35:全26橋)	%	目標		54.00	57.00	
			実績		38.00	50.00	
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (成果指標を設定しない場合は、その理由を記載)		
<p>修繕対象橋梁 (H21～H35:全26橋)</p> <p>平成27年度 旧瀬川橋, 中島橋, 折井橋, 天王橋 の4橋が補修完了 4/26=15%</p> <p>平成28年度 朝日橋, 川原橋, 太田橋 の3橋が補修完了 7/26=27%</p> <p>平成29年度 猫塚南境橋, 東本館橋, 中田橋 の3橋が補修完了 10/26=38%</p> <p>平成30年度 野田橋, 松園橋, 天下田橋 の3橋へ着手したが補修継続 10/26=38%</p> <p>令和元年度 花川橋, 絹川大橋, 安野川3号橋 の3橋が補修完了 13/26=50%</p> <p>修繕対象橋梁 (R1～R2:全71橋)</p> <p>H26～H30までの近接目視点検結果により、R1年度橋梁長寿命化修繕計画を更新。</p> <p>修繕対象橋梁数が増加したことから、R2年度より成果指標対象橋梁数を26橋 71橋に見直す。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である橋梁の補修なので妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・前年度に橋梁補修内容の調査設計を実施し、補修内容、予算について精度を上げている。
	向上余地がある	・以前より上記内容に取組み、橋梁長寿命化において成果をあげていることから、更なる向上は困難である。
	向上余地がない	・公共物の老朽化は年々進むことから、現在の取り組みを維持し、継続的に事業を進める必要がある。
効率性	事業費・人件費の削減余地	・前年度に個々の橋梁補修内容について調査設計を実施。
	事業費の削減余地がある	・それにより適正な補修方法、内容を検討。
	人件費の削減余地がある	・あわせてコスト縮減についても検討。
	どちらも削減余地がない	・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な最低限の事務を行っている。
公平性	受益と負担の適正化余地	・公共施設であり、不特定多数が利用する橋梁の補修であることから、受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき早期対策の必要な橋梁を優先して修繕している。 ・個々の橋梁修繕については、前年度に調査設計を実施し、内容の精度を上げて事業費削減等に努めている。
	次年度に向けて	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき早期対策の必要な橋梁を優先して修繕を実施する。 ・調査設計により、修繕内容の精度を上げて事業費削減に努める。

平成31年度事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	08	02	04	188650	橋梁維持事業(繰越)	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-2	生活基盤の充実			
	施策	1	道路環境の充実			
目的	橋梁の維持管理					
対象	道路利用者、市民、修繕が必要な橋梁					
意図	橋梁修繕により、市内を安全で快適に移動できる。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○橋梁維持事業 橋梁点検、橋梁予備設計、橋梁補修設計、橋梁補修工事						
【平成30年度】 橋梁定期点検 149橋 (L≧15m:144橋+JR橋5橋)、橋梁補修設計 12橋(花川橋、絹川大橋、高瀬橋、熊堂橋、新大曲橋、松雲台橋、新川2号橋、安野川3号橋、八合田橋、浮田橋、猫塚橋、林崎橋) 橋梁補修工事 3橋(野田橋、松園橋、天下田橋)						
【令和元年度】 橋梁定期点検 247橋 (L<15m:244橋、L≧15m:1橋+NEXCO橋2橋) 橋梁補修設計 14橋(留ヶ森三の橋、合沢一合橋、迫橋、野金山橋、立沢橋、下西沢橋、猪鼻4号橋、山屋4号橋、白金沢橋、朴ノ木沢2号橋、母衣輪1号橋、母衣輪3号橋、平良木2号橋、平良木3号橋) 橋梁補修工事 6橋(留ヶ森三の橋、合沢一合橋、迫橋、熊堂橋、新川2合橋、八合田橋)						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会		事業協力・協定	
		後援・協賛	補助・助成		委託	
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位	区分	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度
① 修繕橋梁数	橋	計画		3	3	
		実績		3	3	
②		計画				
		実績				
③		計画				
		実績				
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位	区分	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度
① 修繕対象橋梁修繕率 (H21～H35:全26橋)	%	目標		54	57	
		実績		38	50	
②		目標				
		実績				
③		目標				
		実績				
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	○ 目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)	
○修繕対象橋梁 (H21～H35:全26橋) 平成27年度 旧瀬川橋、中島橋、折井橋、天王橋 の4橋が補修完了 4/26=15% 平成28年度 朝日橋、川原橋、太田橋 の3橋が補修完了 7/26=27% 平成29年度 猫塚南境橋、東本館橋、中田橋 の3橋が補修完了 10/26=38% 平成30年度 野田橋、松園橋、天下田橋 の3橋へ着手したが補修継続 10/26=38% 令和元年度 花川橋、絹川大橋、安野川3号橋 の3橋が補修完了 13/26=50%	
○修繕対象橋梁 (R1～R2:全71橋) H26～H30までの近接目視点検結果により、R1年度橋梁長寿命化修繕計画を更新。 修繕対象橋梁数が増加したことから、R2年度より成果指標対象橋梁数を26橋→71橋に見直す。	
目的妥当性	公共関与の妥当性 ○ 妥当である 見直し余地がある 妥当でない ・公共施設である橋梁の補修なので妥当である。
有効性	成果の向上余地 向上余地がある ○ 向上余地がない ・前年度に橋梁補修内容の調査設計を実施し、補修内容、予算について精度を上げている。 ・以前より上記内容に取り組み、橋梁長寿命化において成果をあげていることから、更なる向上は困難である。 ・公共物の老朽化は年々進むことから、現在の取り組みを維持し、継続的に事業を進める必要がある。
効率性	事業費・人件費の削減余地 事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある ○ どちらも削減余地がない ・前年度に個々の橋梁補修内容について調査設計を実施。 ・それにより適正な補修方法、内容を検討。 ・あわせてコスト削減についても検討。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な最低限の事務を行っている。
公平性	受益と負担の適正化余地 受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある ○ 適正である ・公共施設であり、不特定多数が利用する橋梁の補修であることから、受益者負担は公平、公正である。
総合評価 …上記評価結果の総括	
・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期対策の必要な橋梁を優先して修繕している。 ・その中でも、個々の橋梁修繕については前年度に調査設計を実施し、内容の精度を上げて事業費削減等に努めている。 ・更なる修繕計画の効率性、経済性の向上を図るため次年度に計画見直しを実施する。	

平成31年度
事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	08	02	05	184160	交通安全環境整備事業費	
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実	
	施策	01	道路環境の充実			
目的	道路利用者の交通安全環境の向上を図るため、歩道の設置、歩道の段差解消等の整備を行う。					
対象	道路利用者、市民					
意図	安全に安心して通行できるようになる。					
事業概要	交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 電線地中化事業設計委託等、歩道整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償 【30年度】・歩道整備工事 954m（城内大通り一丁目線(花城町工区)、城内大通り一丁目線(城内工区)、御田屋町鍛冶町線外2路線、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線）パリアフリー等（吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線）7路線 ・電線共同溝 210m(上町花城町線) 1路線 ・融雪設備 14m(上町成田線) 1路線 【31年度】・歩道整備工事 912m（城内大通り一丁目線(城内工区)、御田屋町鍛冶町線外2路線、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線）パリアフリー等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 6路線 ・電線共同溝（上町花城町線、城内大通り一丁目線）2路線					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	当該年度の歩道整備事業実施件数	件	計画	9.00	8.00	
			実績	8.00	7.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	歩道整備（完成）延長	km	目標	1.00	1.00	
			実績	1.00	1.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と歩道整備延長を決定している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・現況の道路敷地内で有効的に歩道整備、段差解消を実施しているため、予算内での更なる向上は困難である。 ・今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・歩道整備は、用地取得せずに現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して経費の節減に努めている。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な、最低限の事務を行っている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、市が整備するものであるため受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	計画的に事業実施したことにより、目標の歩道整備延長を達成することができた。
	次年度に向けて	現況道路敷地内を有効活用するなど工夫してコスト縮減等に努めながら、歩道整備を実施する。

平成 31 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	08	02	05	188620	交通安全環境整備事業(繰越)	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-2	生活基盤の充実			
	施策	1	道路環境の充実			
目的	歩行者の安全確保					
対象	道路利用者、市民					
意図	安全に安心して通行できるようになる。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 電線地中化事業設計委託等、歩道整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償 【30年度】・歩道整備工事 954m(城内大通り一丁目線(花城町工区)、城内大通り一丁目線(城内工区)、御田屋町鍛冶町線外2路線、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線) バリアフリー等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 7路線 ・電線共同溝 210m(上町花城町線) 1路線 ・融雪設備 14m(上町成田線) 1路線 【31年度】・歩道整備工事 912m(城内大通り一丁目線(城内工区)、御田屋町鍛冶町線外2路線、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線) バリアフリー等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 6路線 ・電線共同溝 (上町花城町線、城内大通り一丁目線) 2路線						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
		事業協力・協定		委託		
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位	区分	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度
①	当該年度の歩道整備事業実施件数	件	計画	9	8	6
			実績	8	7	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位	区分	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度
①	歩道整備 (完成) 延長	Km	目標	1.0	0.9	0.3
			実績	1.0	1.0	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		<input type="radio"/>	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と歩道整備延長を決定している。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	・現況の道路敷地内で有効的に歩道整備、段差解消を実施しているため、予算内での更なる向上は困難である。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	・今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
効率性	事業費・人件費の削減余地	・歩道整備は、用地取得せずに現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して経費の節減に努めている。
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な、最低限の事務を行っている。
公平性	受益と負担の適正化余地	・市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、市が整備するものであるため受益者負担は公平、公正である。
	<input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・市道整備は道路管理者である市が行うものであり、現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して歩道整備を進め、コスト縮減等に努めている。		

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	08	02	01	184600	道の駅整備事業費		
総合計画	分野	02	暮らし	政策	02 生活基盤の充実		
	施策	01	道路環境の充実				
目的	道の駅を核とした地域の連携強化を図り、道路利用者に安全で快適な交通環境を提供するため、太田・笹間地区へ道の駅を整備する。						
対象	西南地域（笹間・太田地区）						
意図	道の駅について整備を進める						
事業概要	非常勤報酬 社会保険 整備検討委員会報酬 手数料 建築監理等業務 土木（造成）工事 建築工事 農業集落排水分担金 上水道加入負担金 出資金						
市民参加の有無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	整備件数	件	計画			1.00	
			実績			1.00	
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02
1			目標				
			実績				
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
道の駅整備が目的であり成果指標の設定が出来ないため。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	地域課題を解決していくためのもので、公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	地域の連携強化や、道路利用者への安全で快適な交通環境提供のため整備を進める。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業費・人件費ともに、整備にかかる委託料や工事、検討委員会、意見交換会にかかる最低経費であり、削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	西南地区に整備する予定のものだが、市内に既存の3つの道の駅と役割分担を図りつつ、4つの道の駅が連携することにより、地域活性化を図っていくことが可能であり、適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	道の駅を核とした地域の連携強化を図り、道路利用者に安全で快適な交通環境を提供するため、西南地区へ道の駅を整備することにより、地域課題である人口減少や高齢化、基幹産業である農業の活力低下、公共交通不便地域としての買い物難民の増加や食堂が無いなどの課題を解決しようとするものだが、今後、オープンに向け、既存の道の駅との連携を図っていく必要がある。
	次年度に向けて	

平成 31 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	08	02	01	188050	道の駅整備事業(繰越)	
総合 計画	重点戦略					
	分野	暮らし				
	政策	2-2 生活基盤の充実				
	施策	1 道路環境の充実				
目的	道路利用者の利便性の向上、安全で快適な道路環境の形成と地域の振興					
対象	西南地域（笹間・太田地区）					
意図	道の駅について整備を進める					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
平成30年度 ○道の駅整備に向けた実施設計及び用地取得等 82,379千円 ○造成工事等 27,530千円 ○プロポーザル選考委員会報酬 16千円 令和元年度 ○工事費（造成（二期）工事） 38,479千円						
市民参画の有無 []						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定
		後援・協賛		補助・助成		委託
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度
①	整備件数	件	計画		1	
			実績		1	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度
①			目標			
			実績			
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標 の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
道の駅整備が目的であり成果指標の設定が出来ないため。		
目的 妥当性	公共関与の妥当性	地域課題を解決していくためのもので、公共関与は妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	地域の連携強化や、道路利用者への安全で快適な交通観光提供のため整備を進める。
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	
	<input type="radio"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業費・人件費ともに、策定にかかる委託料や検討委員会、意見交換会にかかる最低経費であり、削減余地はない。
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	西南地区に整備する予定のものだが、市内に既存の3つの道の駅と役割分担を図りつつ、4つの道の駅が連携することにより、地域活性化を図っていくことが可能であり、適正である。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
道の駅を核とした地域の連携強化を図り、道路利用者に安全で快適な交通環境を提供するため、西南地区へ道の駅を整備することにより、地域課題である人口減少や高齢化、基幹産業である農業の活力低下、公共交通不便地域としての買い物難民の増加や食堂が無いなどの課題を解決しようとするものだが、今後、オープンに向け、地域や既存の道の駅との連携を図っていく必要がある。		